



結核を減らすために



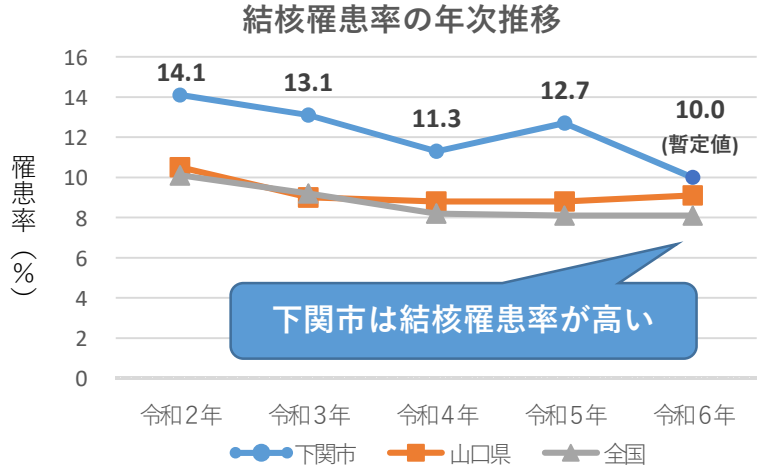
結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。
発症すると、せき、たん、微熱、体のだるさなど、風邪に似た症状がでます。
**過去の病気と思われがちですが、今でも新しい患者が発生している
重大な感染症です。早期発見・早期治療が重症化を防ぐだけでなく、
周囲への感染拡大を防ぐためにも大切です。**

下関市の結核の現状

山口県内では年間100人以上、
下関市内では年間約30人前後の
新規の結核患者が発生しています。

**下関市における結核罹患率※は
全国や山口県と比較すると、
高い状況にあります。**

(※ 新登録結核患者数 ÷ 人口 × 10万)

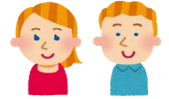


～80歳以上に多い結核！～

下関市で令和6年に発生した結核患者の年齢
構成は、65歳以上が7割を占めています。

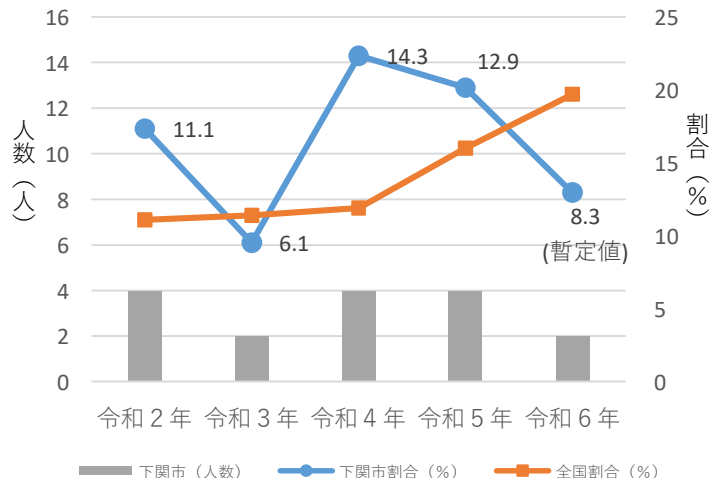
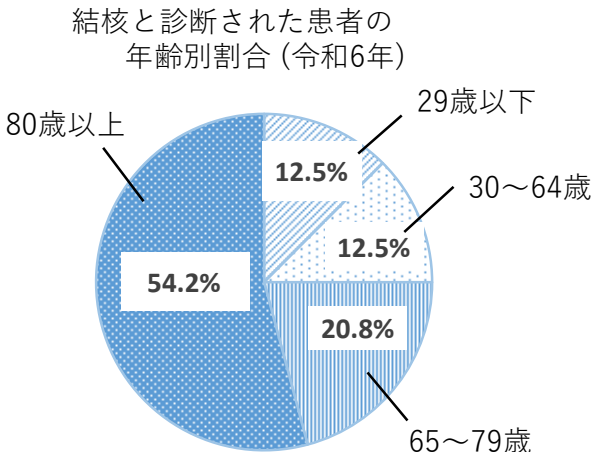
**特に、80歳以上の高齢者が多く、
患者の約半数を占めています。**

～外国出生者の結核～



新登録結核患者のうち
外国出生者の割合は全国的に増加しており、
下関市では、毎年約1割ほどを占めています。
**特に、20～30歳代の新登録結核患者
のうち外国出生者の割合が高い状況
です。罹患率の高い国の出生者が
日本滞在中に発症するケースが
見受けられます。**

新登録結核患者に占める外国出生者の年次推移



医療機関の皆様へお願いしたいこと



シールちゃん

①結核を念頭においた診療をお願い致します。

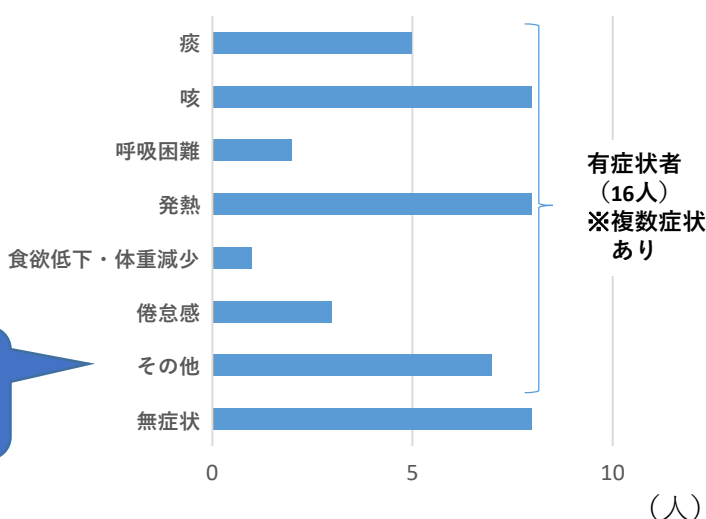
結核を発病すると、咳や痰、発熱など風邪によく似た症状が出ると言われていますが、下関市においても同様の傾向です。

特に、高齢者では症状がはっきり現れない場合も多く、発見が遅れることもあります。典型的な症状がない場合でも、結核を念頭においた診療をお願い致します。

「その他」には「腰痛、腹痛、リンパ節腫脹、便潜血」があり、呼吸器症状以外の症状から肺外結核と診断される方もおられます。

診断時の症状（令和6年）

N = 24



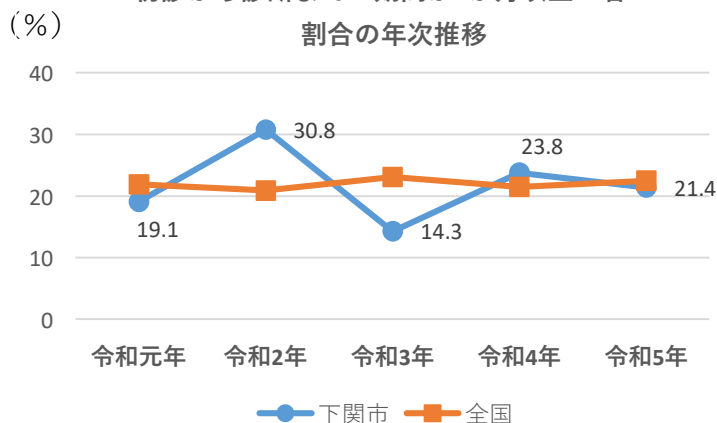
②必要に応じて、菌検査の実施をお願い致します。

「初診から診断までの期間が1か月以上の者の割合」は、結核患者の「診断の遅れ」を示す指標です。

画像にて肺に病変が見られた際には、結核の可能性も考慮していただき、必要に応じて、菌検査の実施をお願い致します。

また、培養検査にて結核診断に至ったケースもあるため、菌検査を実施した際には、培養検査の実施も併せてお願い致します。

初診から診断までの期間が1か月以上の者の割合の年次推移



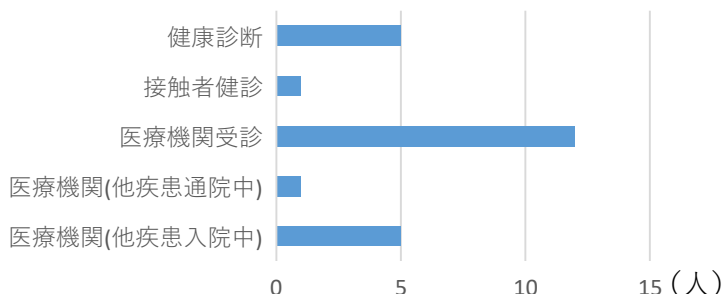
③健康診断（胸部X線検査）の受診勧奨をお願い致します。

下関市における令和6年の患者発見方法は、健康診断（胸部X線検査）が全体の約2割程度で、健康診断も結核患者の発見には大切です。

特に65歳以上の方は、感染症法により、年に1回、胸部X線検査を受ける必要があります。

胸部X線検査を1年以上実施していない高齢者には、受診勧奨をお願い致します。

患者発見方法（令和6年） N = 24



※下関市では、市内在住の40歳以上の方で、検診を受ける機会のない方のために、胸部健康診断を実施しております。

定期的に胸部X線を受けていない方が、塗抹陽性（排菌する状態）で診断される事例が発生しております。

特に施設等の集団生活では、結核を発病した場合に集団感染となる危険性もあります。結核の早期発見、感染拡大防止のためにも、定期的な胸部X線検査や有症状時の検査の実施についてご考慮いただきますようお願いいたします。